○令和６年度の終わりに

修了式では、子どもたちの「頑張り」と「チャレンジ」がびっしりと貼られた、３枚のチャレンジボード（チャレボ）の中に書かれた言葉を紹介しました。改めて感じ、驚いたことは、自分の思いを書く力が伸びている（量や質）ということです。来校の際は是非、職員室前に掲示してあるチャレンジボードをご覧ください。

子どもたちの心の中には、「伸びたい」「できるようになりたい」「がんばりたい」という思いがあります。それを見取って、感じて「子どもに寄り添える教師集団」でなければならないといつも思ってきましたし、これからも職員と一緒に思い続けます。

「志を語らない教師（大人）の下で　志の高い若者が育つはずがない」心に留めている言葉の一つです。どうしても大人は、「してはいけないことをした子が悪い」「言うことを聞かない子が悪い」「そんなの無理だよ」「こんなこともできないのか」と否定的な言葉を言ったり、思ったりしてしまいがちです。できないから、失敗をするから、家庭での躾があり、学校での学びがあるのです。それを全部ひっくるめて、まず受け止めなければならない。そして、「どうしたらできるようになるだろうか」「何か悩んでいるのだろうか」と子ども目線で考える事がまず大切だと思います。

まずを強調したのは、次にがあるからです。この次にをしないと、まずで終わってしまうことがほとんどです。「ああしなさい」「もっとしなさい」「努力が足りない」では子どもは本気にはなりません。「がんばればこんないいこともある」「大丈夫できるよ」「続けることで素晴らしい世界がある」などの「がんばりたい」と思わせる、夢や希望、目標を教師（大人）が語る必要があるのです。人からやらされているということほど辛いものはありません。自らやらずにはいれないような気持ちにさせることが大切だと思います。そして、最後に褒める。結果がどうあれ徹底的に褒める。褒められて嫌な人はいないと思います。子どもたちは、それを待っているのです。がんばったこと、できるようになったことを褒めて認めてほしいのです。

１３日に、全校みんなで桜の苗木を植樹しました。次の日の朝、黄色い帽子をかぶった１年生が水をかけて「うんうん」とうなずいていました。「ありがとう」「これからもよろしくね」「優しいね」と声を掛けると、嬉しそうにニコリ。この苗木が、子どもたちと一緒に生長し、どのような花を咲かせるのかとても楽しみです。　子どもたち、保護者の皆さん、先生方、地域の皆さんに支えていただき「地域とともに本野小」があります。１年間本当にありがとうございました。今後も本野小をよろしくお願いします。

令和７年　３月　本野小学校長　永　井　　洋